

# あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱】 No. 211 平成28年3月1日  
熊本県立図書館発行

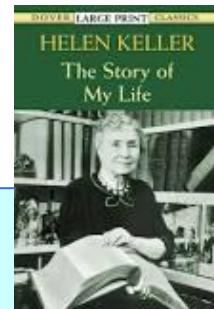
## “レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

### Q. おたずね

伝記の本のコーナーを見ていて、ヘレン・ケラーもありました。ヘレン・ケラーが熊本に来たという話を聞いたことがあります。いつですか。



### A. こたえ

ヘレン・ケラーは3度来日していますが、昭和12年の初来日の際に来熊しています。昭和12年5月31日、6月1日の2日間の滞在でした。

その時の様子は、当時の九州日日新聞の5月31日、6月2日に、九州新聞には5月31日から6月8日まで詳しい記事が載っています。長崎県雲仙から船で三角港に着き、三角線で熊本まで来ています。熊本駅には多くの人が出迎えました。熊本市公会堂で講演、回春病院を訪問し、ハンナ・リデルの墓参。(リデル、ライト両女史記念館には後日ヘレンがエダ・ライトに送ってきた自筆署名入りの著書が残されているそうです。)女学生に向けてや、「盲啞学校」で講演会を行いました。「心の目、心の耳を持てば少しも不自由はない 私のサリバン先生がさうであつた如くにこの先生たちはあなた方をよく愛し育て下さるでせう」と語ったとあります。その後、阿蘇に向かい、栃木温泉の小山旅館に一泊。慌たらしい来熊でしたが、熊本の人びとに愛と勇気と希望を与えてくれたようです。

余談ですが、ヘレンは幼い頃、母親から塙保己一の業績と不屈の精神を聞かされており、この来日で、その偉業を顕彰するために作られた「温故学会」や出身地も訪ねています。塙保己一は7歳で失明しましたが、15歳で江戸に出て、賀茂真淵らに学び、和学講談所を作り、総検校となりました。

「群書類従」を編纂した人物として有名です。保己一の下で「群書類従」の編纂を手伝った人に熊本藩出身で本居宣長門下の「長瀬真幸」がいます。色々な資料を辿れば、熊本への繋がりも見えてくるようです。図書館では、ヘレンの伝記はもちろんの事、当時の新聞のデジタルデータや「群書類従」も閲覧できます。

参考文献：「九州新聞」「九州日日新聞」データベース

「新熊本市史 通史編 第7巻 近代Ⅲ」219.4シ 「昭和ニュース辞典 第6巻」R210.7シ

「熊本の昭和史年表」R219.4ク 「日本ライトハウス40年史」369ニ

「対訳/ヘレン・ケラーと塙保己一選集」289.3ハ 「年譜で読むヘレン・ケラー」289.3ケ

「ミス ハンナリデル」289.3リ 「群書類従」081/グ



お問い合わせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp